

平成30年1月29日

2学年保護者の皆様へ

伊丹市立伊丹高等学校
P T A 会長 東 絵里亜
2学年部部長 谷本 美佐子

2学年保護者会だより

厳寒の候、皆さま風邪など召されずにお過ごしでしょうか。日頃はP T A活動へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。1月11日(木)に開催しました「2学年保護者会」のご報告を致します。(参加人数：保護者80名、先生方10名、合計90名)

1. ご挨拶 (佐藤 万寿美 教頭先生)

たいへん寒い日に、ご足労をいただきましてありがとうございます。

平素から本校の教育活動に、ご理解・ご協力を賜りますことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

3年生は、センター試験まであと2日となり、今年は198名が挑戦します。普通科生徒の82.5%です。もちろん商業科からも挑戦する生徒がいます。ここ数年、本校では増加傾向にあります。

また、現在の3年生はすでに難関私立大学だけでなく、国公立の京都教育大学、兵庫県立大学、信州大学へ入学を決めている人がいます。国公立大学にも「推薦入試」があります。特技や資格などをいかして、面接や論文などの選考があり、「夢の実現」を真剣に考えてきた人が、合格をしています。

ここでいう「ゆめ」とは、目標のことです。どんな小さなことでもいいから、「ゆめ」をもってください。たとえば、「朝学の英単1番になる」とか「次の大会で1点とる」……そんな小さなことの積み重ねが、大きな夢の実現につながります。

71回生は、学年通信や進路通信を通じて、みなさまにお子様の様子や情報を定期的にお届けしています。学年通信「ふくふくフクロウ」は、私もいつも読み物としても楽しみにしています。ご覧いただいていますでしょうか？これから、ちょうどセンター試験まで1年あまりです。71回生3年生0学期のスタートですね。71回生学年団は、福村主任リーダーシップのもと、「チーム71回生」「チームふくろう」でお子様の夢の実現をサポートしてまいります。

私は、昨年本校に20年ぶりに戻って、かつての卒業生や保護者のみなさんに、「市高は最近すごいね！」といつも褒めていただいています。学年主任の福村先生も本校の卒業生、平成最初の入学生ですが、その福村先生が平成最後の卒業生をお送りします。彼はこつこつと夢の実現を積み重ねてきた人です。高校時代から「剣道をやりたい」「剣道の指導者になりたい」「高校の先生になりたい」「母校に戻りたい」「市高をいい学校にしたい」……そんな熱意が強いリーダーシップとなって、教職員一同や生徒さんたちをぐいぐい引っ張ってくれています。

「失敗し続けてわかったことは、『望んだことは叶う』という単純な事実。必ずいつかは……。あきらめなければ……」(俳優、唐沢寿明自伝より)

これから1年間、ご家庭とともに教職員一同、夢の実現にむけてサポートして参りたいと思っています。

本日は、この後、修学旅行のDVD鑑賞や進路講演会などを学年団が用意しています。お楽しみくださいませ。

2. 学年主任ご挨拶 (福村 泰彦 先生)

本日は、お越しいただきありがとうございます。

今回の保護者会を開催するにあたって、昨年11月13日～17日の5日間実施しましたベトナム修学旅行の様子をまとめたDVDを用意いたしました。

また後半は、生徒と共に聞いていただけるよう、2年進路講演会を用意いたしました。保護者の皆さまにとって有益な情報が提供できればと考えております。

いよいよ「高校3年0学期」がスタートしました。学年としましても、保護者の皆さまと手を組みながら、全力で生徒の取組みをサポートして行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 修学旅行を終えて (DVD 鑑賞) 32分

4. 2年進路講演会 (リクルートマーケティングパートナーズ 山形 華 様)

「いまやるべきこと」と題して、自分と向き合って進路を考える講演をしていただきました。

● 「なぜ大学に進学するのか？」

- ・ “やりたいこと” は “知っていることの中” からしか見つからないので、今自分から世界を広げていくことが大事である。
- ・ 進路には、明確な目標を持ち目標に向けて計画的に取り組む「山登り型」と、目の前のことに懸命に取り組む中で自分らしさを発見していく「いかだ下り型」の2つの考え方がある。どちらが正解ということではなく、これからの人生においてはどちらの時期もある。
- ・ 進学して大学に行くということは、社会に出て必要な「力」を身につけることである。これからの社会は、①グローバル化、②技術開発が進化するため専門知識はもちろん大事だがそれだけではなく「伝える力・聞く力・働きかける力・協力する力・柔軟に対応する力・考え抜く力・新しいものを生み出す力」が求められる。

● 「大学での学びで力がつく理由」

- ・ 大学では、講義だけではなく、ディスカッション・ゼミ・グループワーク・フィールドワーク・インターンシップ・研究室で自主的に調査など様々な授業がある。
- ・ 何を学んだのか (学部) やどこで学んだのか (学歴) に加えてどう学んだのか (学習歴) が問われる。大学では、高校生の今よりも自分から進んで学ぶことが必要になる。

● 「進学先選びを失敗しないために」

- ・ 進学先をやめてしまう人は毎年8万人 (約8人に1人)。大学入学後約3割の学生が、別の学部・学科、学校に行きたいと考えている現状がある。原因のほとんどが、「学校があわない・学校選択を間違えた」と感じており、自分が納得できる学校選びをすることが自分自身のために大切な選択である。
- ・ 現在日本には777校の大学があるが、入学するのは1校である。たとえ学部が同じでも、先生の教え方、学ぶ施設・環境、カリキュラムなどは学校によって違う。自分にとって大切なポイントを見つけ、同じ系統の中で比較して、自分に合う学校を選択する。「学びたい」を探すために日本全国に視野を広げて大学を考えることも必要。
- ・ 多くの国公立大学がセンター試験に5教科7科目を課している。これは大学で勉強するには基礎知識が必要であり、幅広い知識を身につけるためである。幅広い知識があることで、自分の出来ることが広がり、自分の選択肢を広げられる。
- ・ 知らない大学も時間のある2年生の間に、入試・授業カリキュラム・キャンパス情報・就職状況・学生生活などが詳しくわかる資料 (学校パンフレット) などを活用して調べてみることも失敗しない進学先選びにつながる。

このたびは、多くの保護者の皆さまにご参加いただき、無事に終えることができました。ご協力ありがとうございました。最後になりましたが、当日ご協力いただきました佐藤教頭先生、学年主任の福村先生をはじめ、各クラスの担任の先生方には、お忙しい中大変お世話になり心よりお礼申し上げます。